

くらしへときを告げる花
四月。晴れやかに咲き、晴れやかに散つて
いくサクラ。出会いと別れの交錯する季節に
咲く花には、殊のほか想いが深まるものかも
しれません。

日本人に愛される花の代表格であるサクラ
が、「木花之開耶姫」の物語として登場する
のは、奈良時代の古事記と日本書紀。そんな
古のころから、絶えず春の花として親しまれ
てきました。

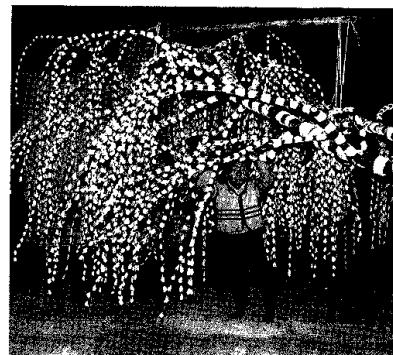
平安時代になると、御所の紫宸殿の庭に

「左近の桜」が植えられ、「花は桜」という
風潮がみられるようになります。そのころ編
まれた古今和歌集には、春の歌百三十四首の
うち、サクラを詠んだ歌が百余首にもなりま
す。

ももしきの大宮人はいとまあれや
桜かざして今日も暮らしつ（古今集）

なんて優雅なくらしぶりでしょう。こんな
生活は、身分の高い人だけのものだったのか
もしれませんが、そのころのサクラの遇され
方を表している歌といえるかもしれません。

暦のなかった昔、野山に自生するヤマザク
ラは、春を告げる自然暦でした。春の訪れは
日ざしや風の状態でも感じられます。が、ヤマ
ザクラが咲き、山が煙るようほの白くなつ
たのを見ると、それが農事開始の目安になつ



▲オコナイのモチバナ

たといいます。

湖北に綿々と続くオコナイにも、サクラの
木が用いられています。長浜市や東浅井郡で
見られる「モチバナ」。枝にモチを丸めてくっ
つけた木を、神社に奉納するのですが、長
浜市石田町や今川町、八条町のオコナイのモ
チバナには、イヌメザクラの木をつかってき
ました。当家の番が廻つてくるときのために、
田の畦などに植えておいた苗は、モチバナに
つかうときには直径二十cm、高さ五、六mに
もなっています。

また、お寺の境内などにシダレザクラがよ

く見られるのは、靈がサクラの木を伝つて降
りて来るという謂われによるものです。

毎年ひな祭りのころになると、「さくら前



線」ということばが聞かれます。サクラの開
花予想の状況をあらわした日本地図が天気予
報の画面に現れると、お花見に行かなくちゃ
と、ソワソワしてしまいます。

滋賀県のサクラの開花を予想するための
「標本木」は、彦根気象台の敷地の中にある
ます。二月下旬からの気温や降水量、過去の
データ、つぼみの重さなど、いろいろな資料
をもとに開花を予想し、毎年三月三日と二十
日に気象庁から発表されます。標本木となっ
ているサクラは、北海道の一部と奄美大島以
南を除いた地域ではソメイヨシノです。

ソメイヨシノは、江戸時代末期、江戸・染井
(現・東京都豊島区)の植木職人によってつく
り出され、丈夫で成長が早いので各地で多く
栽培されるようになった品種で、いま日本の
サクラの八十パーセント以上を占めています。

若葉の出る前に、淡紅白色の花が咲く様は、
木全体が花の色に包まれたようとても華や
か。春を待ちかねた人々が花見に繰り出すの
も当然の美しさです。

でも、接ぎ木で育った木の寿命は約八十年。

最盛期の樹齢は三十〜

四十年頃。ですから、

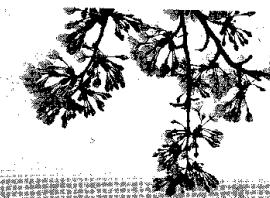
日本のサクラの名所は、
年月とともに変わって
いくことになります。



湖北の春

か
タ
ウ
キ
モ
チ
バ
ナ

桜
で



桜の木の下に私は立っていた。

— サクラ ハ キライ —

散り際の良さを讀えられる桜が
大の苦手な私。
何故か今年も桜の木の下で
ぼんやりしている。

時折 気粉れな風に舞う
花びらの中には
何かの影が映つた。
それはとてもいい香がして
淡いシルエット——

桜の精? まさか
それともあの日何も言わはず
去つていった人々?

田を廻らせば廻らすほど
淡く消えゆく姿。
急げば急ぐほど
もつれる足もと。

そこにはもう満開の花が
惜し気もなく散り急いでいくだけ。
ああ、今年もまた
桜に酔わされてしまつたよつた——。



▲木之本町黒田



▼余呉川沿いの桜並木は写真の中の風景として…

